



平成27年農業ジョブトレーナの養成を中心に活動すると共に、障害者による農業体験の実施、特別支援学校との連携、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取り組みを展開し、福祉事業所や農業経営体をサポートすることで、農福連携を推進する。

基本情報

- 所在地：三重県津市
- 団体名：一般社団法人 三重県障がい者就農促進協議会
- 取組パターン 中間支援の取組
 - ・農業分野での障がい者就農への支援活動事業
 - ・農福連携の推進のための情報発信事業
 - ・農福連携ネットワークづくりの推進
- 選定表彰
 - ・第8回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」農林水産省 グランプリ
- 主力商品・イベント
 - ・農業ジョブトレーナ養成講座
 - ・ワンストップ窓口の地域拠点づくり
 - ・近隣マーケット連携のマルシェ開催

取組の概要

- 農業ジョブトレーナの養成講座を開催し、令和3年度で延べ474人を養成。福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者として活躍している。
- 特別支援学校との連携は、知的教育部門の特別支援学校9校すべてが、作業学習等における農業実習実践校として、農業に取り組み、農業経営体を進路先として選択する生徒も育ててきている。
- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取り組み、新たに農業に参入する福祉事業所を支援
- ワンストップ窓口の地域拠点づくりは農福連携に関する相談窓口を県内全域に広げるため東紀州地域にも設定し、いつでも、どこでも相談できる体制を整備



施設外就労による JA津安芸のキャベツの収穫

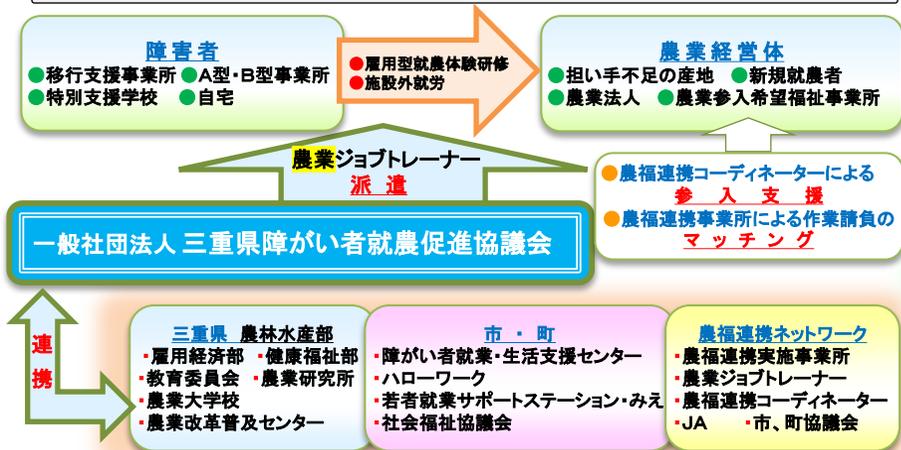


特別支援学校くろしお学園 地域伝統野菜高菜の収穫



ファーマーズマーケットでの マルシェ開催

体制図



取組の成果



項目	単位	活動実績				
		H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
農業ジョブトレーナ養成人数	人	41	59	34	72	154
農業ジョブトレーナ養成講座修了者数						
福祉事業所の農業参入実績	カ所	40	45	46	46	47
農業参入している福祉事業所の延べ数						
農業経営体における雇用実績	カ所	14	17	18	20	22
障がい者を雇用している農業経営体の延べ数						
障がい者就農人数	人	540	586	613	621	636
福祉事業所及び農業経営体で農業に携わる障がい者の人数						

所在地 ▶ 三重県津市桜橋2丁目142 三重県教育会館 1F

連絡先 ▶ TEL:059-253-4187 FAX : 059-253-3359

E-mail: mieshuno@dune.ocn.ne.jp ウェブサイト ▶ https://mieshuno.net

【取組のプロセス】

2015年～

- ・平成27年10月1日設立
- ・雇用型就労体験研修実施
- ・キックオフイベント開催
- ・障害者就農支援スキルアップ研修開催

2016年～

- ・農業ジョブトレーナー養成講座開催
- ・農福連携マルシェの開催
- ・農福連携全国サミットinみえ開催

2017年～

- ・特別支援学校との連携開始
- ・施設外就労への支援

- ・新商品開発の支援
- ・新作物の作付指導支援

2020年～

- ・農福連携ワンストップ窓口設置
- ・JA三重中央会との連携

今後の展望

きっかけ

農福連携を推進する中で、農業経営体から「どう接していいかわからない」また、障がい者からは「農業の経験がないから不安」などの声があり、双方がなかなか踏み出せないでいる現状を痛感。双方の不安を払しょくするには、両者をマッチングし、就農に向けサポートする人材が必要と考え、農業ジョブトレーナー養成講座をスタートさせた。

農業ジョブトレーナーの養成と障害者の就農支援

- 農業経営者と就農を希望する障害者（家族も含む）の双方にかかわり障害者がより働きやすくなるよう支援・指導する「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催。
- 令和2年度末で延べ396人を養成。初めて農業に携わる障害者や施設外就労に初めて取り組む福祉事業所や農業経営体のサポーターとして、また、農福連携に取り組む福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者として活躍している。

特別支援学校との連携 ～農業が進路選択の一つに～

- 高等部の職場体験実習に農業ジョブトレーナーを派遣し、生徒と農業経営者の双方をサポート就職後も定着に向け、定期的に支援している。
- 県教育委員会及び特別支援学校の協力のもと農業教育プログラムを作成。令和2年度は、知的教育部門の特別支援学校9校すべてが、作業学習等における農業実習実践校として、農業に取り組み、農業経営体を進路先として選択する生徒も育ってきている。

農福連携マルシェの開催・商品開発・販路拡大の取り組み

- コロナ禍で地域の催しが中止となり、ほとんどの福祉事業所で収入が減少しているが、近隣のマーケット等との連携で、小規模のマルシェを開催。また、生産物の加工品の開発や、売れる作物の栽培支援も行っている。

ワンストップ窓口の地域拠点づくり

- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取り組み、新たに農業に参入する福祉事業所を支援
- 農福連携に関する相談窓口を東紀州地域にも設定し、いつでも、どこでも相談できる体制を整備

農業サイドと福祉サイドのニーズを適切に把握しサポート

- 新型コロナウイルス感染防止の観点から、オンラインでの農業ジョブトレーナー養成講座を開催している。高校生や新規就農者、農福連携への参入を検討している福祉事業所の職員など予想以上の参加があり、農福連携のすそ野が広がっているのを感じており、オンライン研修の充実を図っていく。
- また、農業サイドと福祉サイドのニーズを適切に把握しサポートするには、それぞれの地域ごとのワンストップ窓口が必要であることから、市町と連携し、地域拠点を創っていく。



石ころやコンクリートの破片を取り除き自分たちの実習園を作りました。

